

【 巻 頭 言 】

熱測定学会のニューノーマルの模索

日本熱測定学会 会長
広島大学 古賀 信吉



令和3年、2021年は、社会全体が重苦しく暗い年明けとなりました。新型コロナウイルス感染症の拡大が止まらない状況の中、まずは会員の皆様が無事で新年を迎えられておられますよう心からお祈り申し上げます。

振り返ると2020年は、社会としてまた個人としてすべてが未体験の状況の中、明確なビジョンも持てず試行錯誤を繰り返した1年でした。昨年1月4日、熱測定学会事務局で第2回幹事会を開催し、その後の懇親会で大いに盛り上がっていました。そのころ、中国湖北省武漢市では原因不明のウイルス性肺炎の発症が相次いでおり、同月14日にはWHOにより新型コロナウイルスと認定されるに至りました。1月下旬には、国内でも感染者が報告されるようになり、2月に入るとクルーズ船での集団感染をはじめとした感染拡大により、日常生活に大きな支障をきたすようになりしました。幹事会でも、3月中旬に予定していた「熱測定スプリングスクール2020」の開催の可否を議論せざるを得ない状況となりました。長年積み上げてきた講習会を中止する重大な痛手を負いましたが、学会として会員や参加者の生命にかかわる危険を冒してはならないことを改めて認識し、その後の新型コロナ感染症拡大の状況下での学会運営の基本となりました。2月下旬には、政府からスポーツ・文化イベントの中止や縮小、さらには、小中高等学校の臨時休校が要請される事態となりました。3月下旬には、東京オリンピック・パラリンピックの延期が決定いたしました。4月7日には、「緊急事態宣言」が東京をはじめとした7都道府県に発出され、さらに同16日には全国に拡大、日常の社会活動は大きく制限されることとなりました。大学では、4月からの新学期にオンライン授業で対応することになり、また、企業では在宅勤務により対応することとなりました。4月末発行の熱測定 Vol.47, No.2 は印刷・発送ができない状況となり、危急の策としてオンラインで先行して発行いたしました。また、4月末を締切としていた学会賞等の応募締切も、メール添付での書類提出を認めたうえで2週間ほど延長いたしました。緊急事態宣言は、5月25日に全面解除となったものの感染拡大は予断を許さない状況で、6月の「熱分析基礎講座」、8月の「熱測定サマースクール」、さらには9月の「第56回熱測定討論会」の開催が次第に危ぶまれるようになりしました。6月6日にオンラインで開催した第3回幹事会で、これらの事業の中止と代替企画としてオンライン討論会を開催することを決断いたしました。熱測定学会委員会に事業変更のご承認をいただいたのち、「熱測定オンライン討論会2020」の実行委員会を、中止となった各事業の実行委員、有志、幹事全員により組織しました。6月30日に第1回実行委員会を開催し、10月26日～28日に講習会と討論会を統合した「熱測定オンライン討論会2020」を開催することとし、総括班、アカデミックプログラム班、ソーシャルプログラム班、Web会場班、講習会班で役割を分担するとともに相互に連携しながら企画の実現に向けて動き出しました。緊急事態宣言の

解除後、次第に制限が緩和されていく中、当然ながら感染拡大は再燃し、7月と8月は、第2波の襲来の状況下にありました。各担当班では、オンライン討論会の実現に向けて種々の困難に出くわし、そのたびにオンラインでの活発な議論を経て方向性を見出してまいりました。8月6日オンライン討論会の実施要項の公表、8月24日発表申込開始と一見順調に進展しましたが、その裏では綱渡りの状態で実現に向けた細い糸をたどっておりました。そのような苦労を、8月30日に発行された「熱測定ハンドブック第3版」のうれしい話題が支えてくれました。9月になると、規制緩和に加えて景気刺激のための政策がすすめられ、不安の中にも感染終息への期待が高まっておりました。9月28日にプログラム公開にまでたどり着き、ゼロから作り上げてきた企画の骨格が固まりました。9月19日にオンラインで開催した第4回幹事会では、オンライン討論会にあわせて開催する委員会ならびに第47回通常総会の運営方法を策定し、学会運営の面からも形が整ってまいりました。10月は、Web企画班のご尽力で、オンラインでの講演リハールを繰り返しました。いよいよ、10月26日の本番初日となり、かなりの緊張感の中、オンライン講習会から順調にスタートしました。27日の2日目午前の討論会パレルセッション、午後の企業講演、特別講演、奨励賞受賞講演では、充実した講演内容と活発な討論で盛り上げていただきました。また、第47回通常総会も滞りなく実施することができました。28日の最終日には、ミニシンポジウム、パレルセッションと通常開催と同様の充実した討論会にいただきました。オンライン講演と平行して開催したオンデマンド講演も、多数の閲覧とメールを介した意見交換を行っていただき、3件の学生優秀発表賞を授与することができました。運営の不手際は多数ございましたが、「熱測定オンライン討論会2020」の実現により、学会本来の目的である学術交流と熱測定の普及活動をとどめることなく実施できたことを何より感謝しております。ご協力いただいた会員の皆様、関連企業の皆様に心からお礼申し上げます。あわせて、2020年度幹事ならびに「熱測定オンライン討論会2020」実行委員の皆様のご努力と卓越したチームワークで成し遂げることができたことを申し添えます。

11月以降、感染拡大第3波の猛威が襲ってきました。2021年度は、単独でのオンライン講習会の開催を予定しております。また、第57回熱測定討論会（つくば市）の開催においても種々の工夫が必要と思われます。第58回熱測定討論会の開催地も決定できておりません。苦難は続きますが、新型コロナウイルス感染症の感染拡大により生じた学会運営上の種々の困難に真摯に対応していくことこそが、未来に向けて日本熱測定学会の新たな形を模索することになるものと信じております。会員の皆様には、引き続きご支援いただきますようお願い申し上げます。

年頭にあたり、会員の皆様のご健康とさらなるご活躍を祈念いたします。